

令和 6 年度 学校総合評価

今年度の重点課題に対する総合評価

学校教育目標に基づいて、以下の5つの重点項目の改善に取り組んだ。

「ア 学習活動 教科指導」の重点課題に関して「予習・復習・課題への取り組み」および「テストの見直しの習慣」について「しっかり行っている」と回答した生徒の割合は、前者が78%(12月調査結果)、後者が76%となり、それぞれ目標を達成した。また7月調査から12月調査にかけて割合が上昇(前者3%増、後者6%増)しているが、学習実態調査と生徒面談を粘り強く行い、生徒自身に学習状況をきちんと確認させたことが奏功したと思われる。また「教師の授業力の向上」については生徒へのアンケート調査「授業への満足度」(分かりやすさ、ポイントの明確性、進度の速さ等の8項目の平均)の割合75%を目標としたが91%という回答が得られた。今後、さらに授業改善を目指すとともに、互見授業をより日常的に行えるようにしたり、教科の枠を越えた横断的な授業を考えたりなどの工夫をしていきたい。

「イ 学校生活(生活・保健指導)」の重点課題に関して、社会的なルール・マナーの実践度は目標の95%を下回ったが、昨年度と大差なく高い割合を維持している。今後も校則で律するのではなく、自己指導能力の育成を目標とし、自主性によるルール・マナー遵守の生徒指導を進めていきたい。また保健指導においては、教育相談の充実、心身の不調を訴える生徒への対応方法の確立を目標とした。不調を訴えがちな生徒について共通理解をはかり、早期からSCや巡回指導員を交えた包括的な支援を行うよう努めている。しかし依然として、不調を訴えて教室に入りにくい生徒は存在しているため、今後もケース会議を開いて個別に丁寧な対応をしていきたい。

「ウ 進路支援 進路指導」に関しては、一人あたりの面接指導回数が年間に6回以上(3年生は10回以上)の目標を達成した。丁寧な個別指導や教員からの声かけは、本校の進路指導、生活指導の根幹であり、今後も重視したい。また、できるだけ早期に進路目標を明確にすることも指導の目標としているが、今年度は3年1学期までに志望学部学科を決めた生徒は77%であり、昨年度を下回った。低学年のうちから進路意識を高める具体的な仕掛けをしながら、時代の変化とともに多様化する入試制度に対応するために柔軟性のある進路指導を目指していきたい。

「エ 特別活動」に関しては、主体的に行事に参加、協力した生徒の割合は目標値を大きく上回り98%という結果であった。学校行事の企画、運営をあくまで生徒主体で行っていることが満足度を高めている理由だといえよう。また部活動は、全学年で満足度の平均は90%近い結果が得られた。

「オ 保護者・地域・同窓会との連携」に関して、保護者のPTA関連の行事への参加率は80%近くになり、ほぼ目標を達成した。生徒の地域交流については、課題研究の調査や発表会を通して地域、市役所と交流して学ぶ機会や、子ども食堂や剪定枝回収のボランティア参加の機会を設けている。

学校評議員からは、地域社会への関わりによって良い教育効果が得られることから今後とも積極的に連携を進めてほしいということを要望された。

次年度に向けての課題と方策

- ・互見授業期間に限らず参観することや、教科横断的な指導について連携することなど、一層授業改善に取り組む職場環境を醸成する。
- ・コロナ禍前に比べ、社会的なルール、マナーを守る意識が希薄になっているため、具体的な例を示し、理解、納得のうえで自主的に実践できるよう粘り強い支援を行う必要がある。
- ・低学年において学習習慣や進路意識を身につけさせるための指導を一層、充実させる。
- ・部活動について、地域や中学校の動向を踏まえ、本校の実情と合わせて実施形態を検討する。
- ・地域における課題研究、交流に一層取り組むとともに、地域の小中学校とも連携していく。

学校アクションプラン

令和6年度 砺波高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	ア 学習活動 教科指導	
重点課題	授業を中心とした学力の養成と自己学習の充実	
現 状	○授業に対する満足度の割に具体的な学習行動に必ずしもつながっていない点が気かりである。引き続き学習意欲を高める仕掛けづくりや声かけを粘り強く行いながら、生徒が学習の意義・目標を核心に据え、学習習慣や態度の変化につながる試みを工夫していく必要がある。 ○授業力向上のため、互見授業を行って日々の授業改善に取り組むとともに、授業方法の研修会等に積極的に参加して、新しい指導法を吸収し授業に反映させている。 ○ICT機器を活用したり、より主体的な学びの場を創出したりして、生徒の思考力・創造力を伸ばす効果的な方法を研究する必要がある。	
達成目標	家庭学習習慣のアンケート調査 a)「予習復習や課題にしっかり取り組んでいる」と答える生徒 b)「テストを見直し学習改善に活かそうとしている」と答える生徒	教師の授業力向上 a)「授業に満足している」と答える生徒 b) 授業でICT機器を効果的に活用する。または、協働力、発信力を高めるための学び合い活動を行う。
	a) 12月調査で75%以上 b) 12月調査で70%以上	a) 達成率75%以上 b) 達成率100%
方 策	○協働力を高める取り組みを学習に取り入れ、思考力、発信力、創造力を高める生徒の集団づくりを進める。予習復習に主体的に取り組む習慣を定着させる。 ○学習実態調査、面接を継続し、生徒の生活実態や学習意識の変化を把握する。また指導と評価を一体化する中で、生徒に学習状況をきちんと確認させながら、学習方法や姿勢の改善、または発展的な取り組みにつながるアドバイスを与えていく。 ○課題発見力と問題解決力を養う探究活動を通じて思考力や表現力、判断力を育成する。 ○教科部会、互見授業、授業研修会などを通じて指導力を高めるよう努力する。	
達成度	(a) 78% (b) 76%	(a) 91% (b) ICT活用:96% 学びあい:96%
具体的な取組状況	① (a)教科担当者はクラス担任とともに生徒の学習状況の把握に努め、担任面談や教科面接を通して適宜相談や助言を行っている。(b)授業の中でテストの解答解説を行ったり、見直しノートを作成するよう働きかけたりしながら、誤りから学ぶことを促している。 ② 1年次で課題研究の基礎を学び、2年次で実践することにより、課題発見力と問題解決力の育成を図っており、とやま探究フォーラム等でその成果を発表している。教師の授業力向上は生徒の学力向上に直結する課題であるため、互見授業期間は他教科の積極的な見学や、ICT機器の有効活用等を教員に働きかけている。	
評 価	A	A
学校関係者の意見	生徒の成長には地域社会との関わりが不可欠であり、学校内だけでなく学校外での活動を積極的に取り入れることで、より良い教育効果が得られると思うので、今後も地域と連携を取ってほしい。	
次年度に向けての課題	① 達成度は昨年より上がった。テストの見直しや自ら学習改善に向かう姿勢も確立しつつある。今後も引き続き、生徒の実情に応じて、授業や課題に対する取り組み方を常に見直していきたいと考えている。 ② 1年次での探究的な学びと2年次での課題研究をさらにリンクさせ、継続的な学びとなるよう、組み立てを工夫したい。また互見授業期間は設けてあるが、期間にとらわれず、気軽に授業を参観し、意見を交換し合うことが必要である。また教科の枠を越えた横断的な授業も今後考えていきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

令和6年度 砺波高校アクションプラン -2-		
重点項目	イ 学校生活	
重点課題	学校生活における基本的生活習慣の涵養と心身の健康保持	
現 状	① 規律ある生活として「挨拶の励行」「服装、頭髮や身だしなみ等の整備」「時間厳守」「公共でのマナー遵守」「携帯電話の適切な使用」を挙げているが、「社会的なルール・マナーを守る気持ちを持つ（意思表示）」即ち、ルール・マナーを必ず守り実践すると回答した生徒は86.0%（令和5年度12月）である。 ② 各学年には、自己肯定感が低く日常的に心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が見られる。早期解決が難しい悩みが原因の場合も多く、長期的な支援が必要な場合もある。生徒の心身の状態の変化を早期に把握し、各学年との連携を図りながら、教職員全体で適切な対応と支援をする必要がある。	
達成目標	① 社会的なルール・マナーを知り、必ず守り実践する生徒	② 教育相談活動の充実と心身の不調を訴える生徒への対応方法の確立
	95%以上	カウンセリング等 年30回以上 生徒及び教職員対象の講演会等 年2回以上 メンタルヘルスに関わる情報提供 年3回以上
方 策	○「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施して理解度を高める。また、実践する生徒を増やす方策として、生徒が作り宣言したルールを守る形として生徒の自主性に任せる。 ○学年部会や学年連絡会を通して、心身の不調を訴える生徒や学校不適応傾向を示す生徒についての共通理解を図り、早期からスクールカウンセラーや巡回指導員等の専門家を交えた包括的支援を行う。 ○保健講話や保健だより・掲示板による情報発信により、生徒が自らメンタルヘルスについて学ぶ機会を設けることで、自己理解を深め、周囲の人との良好な関係を築くための一助とする。	
達成度	87.4%	カウンセリング等 年34回 生徒及び教職員対象の講演会等 年3回 メンタルヘルスに関わる情報提供 年4回
具体的な取組状況	・「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施 ・生徒による「ルールづくり」（制服の着こなし）について ・式や学年集会時に周知徹底	・ カウンセリング等 SC 20回 巡回指導員 14回 ・ 講演会等 第1, 2 学年生徒対象 10/9 第2 学年生徒対象 7/17 教職員対象 7/4 ・ 情報提供 保健だより「HEALTH」11, 12, 1, 2月号
評 価	B	A
学校関係者の意見	ルールは知っていても行動に移せていない生徒がいるということで評価をBとされたが、図書館や公共機関等、学校外での活動の様子をみると、地域社会の模範となるような行動がみられるので心配されるようなことはない。 多様な背景を持つ生徒が増えているため、個々に合わせた対応が求められる。対人関係など、メンタル面で問題を抱える生徒へのサポートを早期に強化する必要がある。	
次年度に向けての課題	・ 自主自律の精神の涵養 ・ コロナ禍前までは、達成度97%以上であったが令和3年度以降90%を下回っており、規則遵守意識が希薄になっている。これまで以上に「理解、納得、行動」の順を明らかにし、具体的な例を示して粘り強く指導や援助を行う必要がある。	・ 今年度後半、生徒のカウンセリング相談件数が減少した。今後はスクールカウンセラーによるメンタルヘルス講座の開講など、生徒がカウンセラーと接する機会を設け、生徒が心身の不調に対して気軽にカウンセリング相談を活用することができるような教育相談活動の充実をさらに推進する必要がある。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった）

令和6年度 砺波高校アクションプラン －3－		
重点項目	ウ 進路支援 進路指導	
重点課題	進路目標の実現に向けて、進路意識の高揚と目標設定の早期化	
現 状	○進路意識が希薄で自分の能力や適性を把握できず目標設定が遅れる生徒がいる。 ○進路目標はあるものの、学習意欲にはつながらない生徒がいる。 ○大学進学後、進路変更を考えるケースが目立ってきた。	
達成目標	① 生徒1人あたり面接指導の年間実施回数	② 3年1学期までに、進路目標を明確にした生徒の割合
	1, 2年生 : 6回以上 3年生 : 10回以上	80%以上
方 策	○生徒が進路意識を深め、自己を見つめる面接の指導を工夫する。 ○総合的な学習の時間などを利用し進路研究を行い、進路意識を高める。 ○社会人や大学生による講話を充実させる。またオープンキャンパスやインターンシップなどへの参加を勧めることにより、進路目標の早期設定とミスマッチ防止につなげる。	
達成度	面接回数 1・2年生 : 6回程度 3年生 : 10回以上	志望学部学科を決めた時期 ・2年3学期まで 64%(昨年79%) ・3年1学期まで 77%(昨年85%)
具体的な取組状況	・3年生…模試実施後や志望校選択に向け時期を問わず10回以上実施。 ・2年生…進級直後、各学期始め、科目選択時や試験後などに実施。 ・1年生…入学直後、各学期始め、文理選択の時期や試験後などに実施。	・1, 2年生は、総合的な探究の時間、進路講話、職業人や大学生との懇談などの取り組みを通して、大学や職業の意識付けを図った。 ・3年生は、模試などを通して志望校を検討し将来の自己実現に向けた指導を行った。 ・共通テスト後は、各々の実情に合わせて出願のアドバイスと受験への指導を行った。
評 価	A	B
学校関係者の意見	最終的にどこに進学するかは本人の意思を尊重すべきであるが、決定に至るまでの過程で様々な情報を提供し、十分に検討できるようサポートする必要がある。どのような大学に進学したとしても、そこで何を学び、将来何をしたいのかという目標を明確に持つことがその後の人生を切り開く上で重要である。	
次年度に向けての課題	・低学年のうちから進路意識を高めることが、その後の学習に対する姿勢や望ましい生活習慣の確立等、充実した高校生活に繋がる。そのための仕組み（個別面談、進路研究、志望理由書作成、見学や体験など各種校外活動等）づくりが大切であり、時代の変化とともにその内容や実施時期に常に検討を加える必要がある。 ・近年の多様な入試制度に柔軟に対応できる体制の確立も課題である。	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 達成できなかった)

令和6年度 砺波高校アクションプラン -4-		
重点項目	エ 特別活動 特別活動・図書委員会活動の活発化	
重点課題	生徒の主体的な活動の充実・図書館利用の推進	
現 状	○学校行事は生徒会が中心となって運営し、クラスや部活動単位で協力し合ってまじめに取り組む生徒が多い。本校生徒としての自覚や連帯感が高いが、やや消極的で主体性に欠ける生徒も見られる。 ○ほとんどの生徒が部活動に所属して主体的に活動に取り組んでいるが、学習との両立に悩み、達成感を得られていない生徒もいる。また部員数の減少により充実した活動を維持することが難しい部がある。 ○図書館の利用方法としては、自主学習の場としての利用がほとんどであり、探究的な学習に図書館資料を使うことが少ない。 ○図書を借りる生徒は多岐にわたるが、貸出冊数はあまり多くない。日頃から読書をする習慣が身に付いていない生徒が少なからずおり、読書量が十分ではない。	
達成目標	①学校行事において主体的に参加、協力した生徒の割合 ②部活動の充実度や結果に対する満足度	③年間読書冊数（生徒一人あたり 3 冊） ※参考：図書館貸出冊数
	全学年 90%以上	4～1月における全校生徒の読書冊数総数 1,500冊以上 ※貸出冊数1,000冊以上
方 策	○行事ごとにアンケートを実施してTGPの身に付けたい力を生徒に意識させ、主体的、協力的な参加意識を高める。 ○限られた時間の中で主体的かつ効率的な部活動運営を工夫する。アンケートによる情報収集をし、クラス減、教員数減の中、今後の部活動の在り方等について生徒ともに協議しているが、さらに協議を継続していく。 ○2 学年課題研究での利活用を進めるため、企画研修部、2 学年との連携を図ると共に、蔵書種類の充実と展示方法の工夫により生徒の主体的な学びの場となるような施設環境を整える。 ○生徒図書委員会の主体的な活動として、教養講座や読書会の運営、アンケート調査などを位置づけ、各クラスの読書推進役となって読書意欲を喚起するよう働きかける。	
達成度	① 学校行事において主体的に参加、協力した生徒の割合 98.0% 応援歌練習会 99.0% 体育大会97.6% 砺高祭 98.3% 球技大会96.9% ② 部活動に対する満足度 88.5(88.6)% 1年：87.5(94.3)% 2年：79.3(82.0)% 3年：93.4(92.2)% ()内は昨年度	③ 生徒年間読書冊数 1,486 冊 4～7月 1～3年生 8～1月 1・2年生を対象としたアンケート結果による ※図書館貸出冊数 911冊
具体的な取組状況	4月 応援歌練習会事後アンケート実施 6月 体育大会事後アンケート実施 9月 砺高祭事後アンケート実施 12月 1,2年生による球技大会を実施 1月 部活動アンケートを実施 1月 球技大会アンケート実施	読書への誘い、図書館だより、新刊案内毎月発行 4月 図書館オリエンテーション(1年) 7月 教養講座 8月 校内読書感想文コンクール 9月 砺高祭 7・12月読書会 1月 ビブリオバトル(1・2年) 探究活動オリエンテーション(1年)
評 価	A	B
学校関係者の意見	学校生活が充実していると、生徒は精神的に安定する。生徒が様々な場面で活躍できるように、機会や環境を作る必要がある。生徒が主体的に活動できるような、多様な活動を企画・実施してほしい	
次年度に向けての課題	○生徒が主体的、協力的に企画運営や参加ができるような体制を充実させていく。 ○部活動については、地域、中学校の動向を踏まえ、学校の実情と合わせて、部の存続や実施形態等を継続的に検討する。 ○各学年や教科とのスムーズな連携を図り、課題研究、小論文指導等のサポート体勢を充実させる必要がある。生徒が主体的に図書を活用することができるよう館内施設を充実させるとともに、図書の魅力や活用方法について発信していきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

令和6年度 砺波高校アクションプラン ー5ー		
重点項目	オ その他 保護者、地域、同窓会との連携	
重点課題	保護者や地域、同窓会との連携・協力の推進および広報活動の充実	
現 状	○保護者の学校行事やP T A行事への参加率は高い。 ○授業や生徒会活動、部活動等、多様な活動を通して、地域の方との交流や学習する機会を設けている。	
達成目標	①保護者がP T A総会やP T A研修会に参加する割合 (保護者会を除く)	②授業や特別活動で地域の方々と交流した生徒の延べ数が全校生徒に占める割合
	8 0 %以上	5 0 %以上
方 策	○P T A行事や学校行事は早めに知らせ、できるだけ保護者が参加しやすいよう配慮する。 ○授業や特別活動で生徒が地域調査に出かけたり施設訪問をしたり、地域の人に来校していただく機会を意図的に設ける。 ○学校ホームページや同窓会ホームページを適時更新し、本校の教育活動の広報に 努める。	
達成度	5月 P T A総会 (全学年) 71. 5% 5月 P T A懇談会 (全学年) 81. 0% 7月 3学年研修会 87. 3% 10月 1, 2学年研修会 76. 6%	延べ418名 88. 4%
具体的な取組状況	P T A総会ならびに研修会には多くの保護者に参加していただき、概ね目標を達成することができた。体育大会や合唱コンクール、砺高祭においても、保護者や地域の多くの方々に来場していただいた。授業では課題研究で地域の方にインタビュー調査をしたり、体験学習の機会を設けたりして地域の方から学ぶ機会が増加した。また、部活動の一環としての地域の活動に参加する生徒が増加した。	
評 価	A	A
学校関係者の意見	先生方の努力が生徒と保護者に伝わることで、さらに先生方のモチベーションが高まり、より良い教育活動につながる。この循環を今後も継続し、より良い教育環境を維持・発展させていってほしい。	
次年度に向けての課題	○次年度も引き続き、P T A行事に多くの保護者に参加していただけるように、P T A懇談会や研修会を土曜日の午後に実施する予定である。 ○授業や特別活動で、地域の方と交流する多様な活動の機会を積極的に設ける。 ○砺波高校や礪波同窓会のホームページを適宜更新し、多くの方に見ていただけるよう努める。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)